

2026年4月21日

年間20万トンのCO₂削減を見込む国内有数規模の自家発電設備 松山事業所でガスコージェネレーションシステムが本格稼働

帝人株式会社（本社：大阪市北区、社長：内川 哲茂）は、このたび、愛媛県松山市の松山事業所北地区において、都市ガスを燃料とするガスコージェネレーションシステムによる自家発電設備を本格稼働させました。本設備は、発電時に発生する排熱を有効活用し、電力と熱を同時に供給する高効率エネルギーシステムであり、CO₂排出量の大幅な削減とエネルギー供給の安定化を両立するものです。

帝人グループは、重要な経営課題として「気候変動の緩和と適応」を掲げ、「2050年度までにCO₂排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）を達成する」ことを長期目標としています。当社最大規模の生産拠点である松山事業所におけるエネルギー転換は、グループ全体の環境負荷低減において極めて重要な取り組みです。

松山事業所ではこれまで、石炭および石油燃料を使用した自家発電設備を運用してきましたが、設備の老朽化への対応と環境負荷低減が課題となっていました。こうした背景を踏まえ、当社は2022年10月に、同事業所北地区の自家発電設備を都市ガス燃料のガスコージェネレーションシステムへ転換することを決定しました。

今回稼働を開始した新設備は、約3万kWの発電能力を有し、受配電設備の更新も含めた投資規模は百数十億円にのぼる国内有数の産業用ガスコージェネレーションシステムです。また、将来的には燃料を水素に置き換えることも可能な設計であり、クリーンエネルギー化の進展にも柔軟に対応できます。

本設備の本格稼働により、松山事業所のCO₂排出量は2018年度比で年間約20万トン削減できる見込みです。これにより、エネルギー利用効率の向上および供給の安定化が図られるとともに、事業継続性（BCP）の強化にもつながります。また、本取り組みにより当社は、自家発電に石炭を使用してきた日系化学繊維メーカーの中で先駆けて「完全脱石炭化」を達成しました。

帝人グループは、今回の本格稼働を重要なマイルストーンと位置づけ、今後も再生可能エネルギーの導入拡大や、設備稼働データを活用したさらなる省エネルギー施策を推進し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速していきます。

以上

【 報道関係のお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL：(03) 3506-4055